

〈平成20年度学部附属共同研究報告〉

続・子どもが変わる表現とダンスの学習
～中学校ダンスの必修化を見通して～

高橋るみ子¹⁾・竹内 元¹⁾・高橋京子²⁾・有村理代²⁾
田中寿幸³⁾・田ノ上久美子³⁾

Sequel: Studies of Expressions and Dance that Could Change Children
— Consideration of Making Dance a Requirement in Junior High Schools —

Rumiko TAKAHASHI¹⁾, Gen TAKEUCHI¹⁾, Kyoko TAKAHASHI²⁾
Riyo ARIMURA²⁾, Kazutaka TANAKA³⁾, Kumiko TANOUE³⁾

1 研究の目的

今回の学習指導要領（中学校保健体育）の改訂で新たに必修となった「武道」と「ダンス」は、その円滑な実施（平成24年度）に向けた取り組みが、全国各地で手探りされている。

本研究は、近い将来にこうした学習内容（ダンス）の改善があることを予想・期待する高橋が中心となり、中・高等学校の「ダンス」を見通した小学校の「表現運動」や、その「表現運動」を見通した幼稚園の「表現」の授業づくりを上位目標に、一貫性のある考えのもとに豊かに学習をすすめ、学習者がその効果を確認することができる活動づくりを目的とした実践研究である。そしてそれは、平成16年度に取り組んだ学部と附属幼稚園（以下、附幼）との共同研究に始まり、当時の年長児が附属中学校（以下、附中）を卒業する平成25年をもって終了・報告する実践研究である（予定）。またそれは、平成19年度に、附属小学校（以下、附小）にダンスクラブが誕生したことをきっかけに、附小とも連携・共同して取り組む実践研究である。

2 研究の概要

5年目となる本年度（平成20年度）の研究の概要を報告する前に、これまでの4年間の研究の概要をまとめる。

初年度（平成16年度）は、附幼（福島裕子教諭）と共同で、「発表を目的とした表現あそびづくり」をテーマに、高橋と奥村が附小で試みた「表現科」の内容と関連させた活動づくり（対象：年長児）を行い、その成果（作品『宇宙人ピピピ』）を「ムーブメント・アート・インみやぎ2005」で発表した。研究生（山田耕介）と学生12名が協力した。

続く平成17年度は、附幼（東園栄子、高橋京子教諭、他）と共同で、前述の「表現科」のモデル教材として開発・公開した「魚（ぎょ）」を用いた活動づくり（対象：年長児）を行い、

¹⁾ 宮崎大学教育文化学部

²⁾ 宮崎大学教育文化学部附属幼稚園

³⁾ 宮崎大学教育文化学部附属小学校

その成果（作品『赤、青、黄色、黄緑…虹色のさかなちゃん』）を「ムーブメント・アート・インみやざき2006」で発表した。舞踊学ゼミの学生2名が協力した。

3年目となる平成18年度は、附幼（東園栄子、高橋京子教諭、他）と共同で、殊に活発な男児に人気のサッカーを題材に取り上げた活動づくりを行い、その成果（作品『めざせ！ワールドカップ』）を「ムーブメント・アート・インみやざき2007」で発表した。舞踊学ゼミの学生2名と横山知子教諭（平成18年度派遣研修生）が協力した。

平成19年度は、附小のダンスクラブ「元気もりもりF-KID'S」の誕生をきっかけに、その指導者の粟野聖子、田ノ上久美子、田中寿幸教諭らが共同研究者に加わり、附幼（福島裕子、黒木妙教諭）と連携させた活動づくりを試みた。附幼は、高橋らが開発した教材「暑い国から来たスパイ」を取り上げ、その成果（作品『スパイ大作戦』）を「ムーブメント・アート・インみやざき2007スペシャル」で発表した。同じく附小のダンスクラブも、ムーブメントで、4月からの共同研究の成果（作品『今晚は、クリスマスイブ』）を発表した。学生・院生9名と中武俊教諭（平成19年度派遣研修生）が協力した。

3 研究の成果

今年度（平成20年度）は、附幼（高橋京子、有村理代教諭、他）と共同で、子どもたちが、たしかなものをつかみ新しい発想に至ることができるよう、観察・発見する楽しさや、それを動いて確かめる楽しさ、そしてそれを作品に仕上げ発表する楽しさの実体験を提供する活動（たのしいこといっぱい）を仕組んだ。同じく附小（田ノ上久美子、田中寿幸、堀真朋教諭）と共同で、附幼から進学した生徒（3・4年生）が、附小のダンスの学習や活動づくりに興味と関心をもって取り組むことができるよう、地域で発表した体験が生きる活動（「第2回M-KID'Sエクササイズコンクール」出場やテレビ出演、他）を仕組み実践した。前者については、学生（「体育実技Ⅳ」の受講生）7名に参加を促した。さらに、アーティストとして県内外で活動する児玉孝文（教育学研究科2年）と野邊壮平（研究生）に協力を求め、彼らのコンテンポラリー・ダンス公演へ招待する等、新たな仕掛けも試みた。ただし、これら諸々の活動の成果を確認する場となる「ムーブメント・アート・インみやざき2009」は、本報告書の作成・提出後の1月25日（日）に開催される。作品発表の際に観察した子どもたちの実際や直後に収集する生の声を報告できないことは残念である。

なお、子どもたちが学習の成果を確かめる場である「ムーブメント・アート・インみやざき」（主催：宮崎県女子体育連盟）は、毎年1月の下旬（または2月の下旬）の日曜日に、メディキット県民文化センター（宮崎県立芸術劇場）の演劇ホールを会場に開催される、県内の幼児から一般が日ごころの表現・創作ダンス学習の成果を公開する発表会である。同じく「M-KID'Sエクササイズコンクール」（主催：舞踊学研究室）は、高橋らが宮崎市教育委員会と連携して開発・普及に取り組むダンスエクササイズの工夫を、地域を同じくする小学生と大学生が見せ合うコンクールであり、今年度は7月19日（土）にメディキット県民文化センターのイベントホールで開催した。今年度は、その工夫を高く評価された附小ダンスグループと他2グループが宮崎市の夏祭である「えれこっちゃんみやざき2008」の本舞台で再演し、学習の成果を確かめることができた。

4 研究の課題

幼児期の表現の楽しさ体験は、小学校体育（表現運動領域）の基礎であり、同様に小学校期のダンスの楽しさ体験は、中学校保健体育（ダンス領域）の基礎となる。中学校ダンスが完全実施となる平成24年度は、平成16・17年度の活動づくりと発表会を体験した年長児（50余名）が附中の1・2年生に進級する。しかし、この10年、附中の研究公開（保健体育科）で「ダンス」が取り上げられたことはない。平成21年度文部科学省新規・拡充事業の政策目標には、「平成24年度の完全実施までに、すべての中学校で武道・ダンスが円滑に実施され、新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導ができるようにする」が示され、地域に率先したダンスの授業づくりを附中に期待する声は大きい。そうした声に応えるためにも、次年度（平成21年度）は、附中とも連携を図った附小の体育（表現運動）の授業研究を計画・提案したいと考えている。この5年間にダンス（上演芸術）を体験した附幼の年長児（238名）と、同じく附小の生徒（42名）の主体的な取り組みに期待したい。

（文責：高橋るみ子）